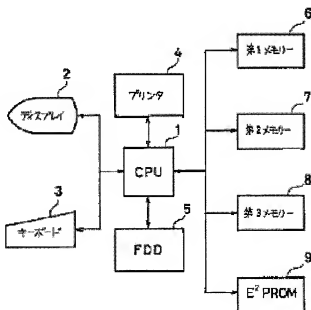


No title available**Publication number:** JP5334298**Publication date:** 1993-12-17**Inventor:** HIRAMI AKIRA; KAWAMOTO HIROSHI**Applicant:** SHARP KK**Classification:****- International:** G09G5/32; G06F17/21; G09G5/32; G06F17/21; (IPC1-7): G06F15/20; G09G5/32**- European:****Application number:** JP19920136995 19920528**Priority number(s):** JP19920136995 19920528**Report a data error here****Abstract of JP5334298**

PURPOSE:To improve operability by recording document printing setting data relating to the layout and the character styles of sentences along with document data, simultaneously calling the data and automatically changing the print setting of the document.

CONSTITUTION:When registering the document, a CPU 1 transfers flags such as the type face at the time of printing, etc., within the flags relating to system setting provided on a second memory 7 to a third memory 8 to be written in a document file along with the document data, tab information and format information already transferred from a first memory 6 to the third memory 8. When calling the document data, The CPU 1 respectively calls the format information, the tab information and the document data stored in the document file at the third memory 8. Then, when the call of the document data is the call from the function selecting screen of a display 2, the respective flags of the document printing setting data such as the type face at the time of printing, etc., are called from the document file to the third memory 8 and the document data are reedited based on the flags to be displayed on a screen.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

特開平5-334298

(43) 公開日 平成5年(1993)12月17日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/20

G 0 9 G 5/32

識別記号

5 6 6 E

庁内整理番号

7343-5L

F 9061-5G

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全9頁)

(21) 出願番号 特願平4-136995

(22) 出願日 平成4年(1992)5月28日

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 平見 彰

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

(72) 発明者 川本 博士

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

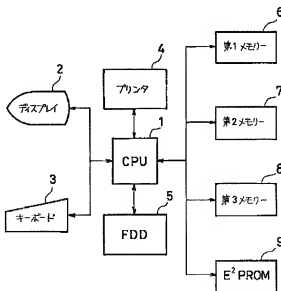
(74) 代理人 弁理士 原 謙三

(54) 【発明の名称】 情報処理装置

(57) 【要約】

【構成】 文書ファイルへの文書データの登録に伴い、この文書データに対応する文書印刷設定データを同時に文書ファイルに登録し、また、文書ファイルから文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出すことで、文書の印刷設定を上記の文書印刷設定データに基づいて自動的に変更する。

【効果】 これにより、文書データ毎に印刷設定を変更するような場合でも、文書データ毎の文書印刷設定データを文書ファイルに登録しておくことで、印刷設定を自動的に変更させることができ、ユーザーは文書を作成した時点と同じ設定で文書を修正することができ、操作性の向上が図られる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】記録媒体に記録された書式情報や文章データ等の文書データの制御を行う制御手段を備えた情報処理装置において、

上記制御手段は、システム設定データのうち、文章のレイアウトおよび字体に関する文書印刷設定データを文書データと共に記録媒体に記録し、新規に再度、記録媒体から文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出して、文書の印刷設定を自動的に変更することを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】上記制御手段は、文書作成中に別の文書データを読み出す場合、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行わず、文書の印刷設定の自動変更は行わないことを特徴とする請求項1記載の情報処理装置。

【請求項3】所定のシステム設定データを記憶したシステム設定記憶手段を備え、

上記制御手段は、文書データを全部消去して機能選択画面を表示する場合、システム設定記憶手段に記憶されたシステム設定データを自動的に呼び出し、文書データを読み出す前のシステム設定の状態に戻すことを特徴とする請求項1記載の情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えば日本語ワードプロセッサ等に供され、記録媒体への文書データの記録を可能にした情報処理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、一般に、日本語ワードプロセッサは、ユーザーがキーボードをキー操作することにより、書式情報や文章データ等の文書データを入力すると共に、この文書データを制御手段により制御してディスプレイに表示することで、文章の作成が行われるようになっている。また、上記のような日本語ワードプロセッサには、FDD (Floppy Disk Device) を設けたものがあり、このような装置では、フロッピーディスク単位で文書データの記録/再生を行うことで、作成文章の保存あるいは更新を可能にしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記従来のようにフロッピーディスクへの文書データの記録を可能にした日本語ワードプロセッサでは、文章のレイアウトおよび字体に関する文書印刷設定データについては、フロッピーディスクへの記録を行っていない。このため、文書の印刷設定が文書作成時と異なる場合、再度印刷設定を行う手間が必要となる。また、文書作成から文書の更新までに間が隔き、どのような設定をしていたか忘れて、再設定に手間がかかる場合もある。さらには、文書印刷の再設定をしないまま印刷を行い、元の文書と異なる印

2

刷設定で文書を印刷してしまうという問題を有している。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1記載の情報処理装置は、上記の課題を解決するために、記録媒体に記録された書式情報や文章データ等の文書データの制御を行う制御手段を備えた情報処理装置において、以下の手段を講じている。

【0005】即ち、上記制御手段は、システム設定データのうち、文章のレイアウトおよび字体に関する文書印刷設定データを文書データと共に記録媒体に記録し、新規に再度、記録媒体から文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出して、文書の印刷設定を自動的に変更する。

【0006】また、請求項2記載の情報処理装置は、上記の課題を解決するために、請求項1記載の情報処理装置において、以下の手段を講じている。

【0007】即ち、上記制御手段は、文書作成中に別の文書データを読み出す場合、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行わず、文書の印刷設定の自動変更は行わない。

【0008】また、請求項3記載の情報処理装置は、上記の課題を解決するために、請求項1記載の情報処理装置において、以下の手段を講じている。

【0009】即ち、所定のシステム設定データを記憶したシステム設定記憶手段を備え、上記制御手段は、文書データを全部消去して機能選択画面を表示する場合、システム設定記憶手段に記憶されたシステム設定データを自動的に呼び出し、文書データを読み出す前のシステム設定の状態に戻す。

【0010】

【作用】上記請求項1記載の構成によれば、記録媒体への文書データの記録に伴い、この文書データに対応する文書印刷設定データを同時に記録媒体に記録するようにしており、また、記録媒体から文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出すことで、文書の印刷設定を上記の文書印刷設定データに基づいて自動的に変更するようになっていく。

【0011】また、請求項2記載の構成によれば、文書データの呼び出しに際して、この呼び出しが、文書作成中に文書データを追加して呼び出した場合、即ち機能選択画面からの呼び出しでない場合には、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行わず、文書作成中の印刷設定が継続されるようになっていく。

【0012】また、請求項3記載の構成によれば、文書データを全部消去して機能選択画面を表示する場合には、システム設定記憶手段に事前設定されたシステム設定データを自動的に呼び出して、文書データを読み出す前のシステム設定の状態に自動的に戻すようになっていく。

る。

【0013】

【実施例】本発明の一実施例について図1ないし図7に基づいて説明すれば、以下の通りである。尚、本実施例では、情報処理装置を日本語ワードプロセッサにおいて適用した場合を示している。

【0014】本実施例に係る日本語ワードプロセッサは、図1に示すように、文書データやシステム設定データ等の各種データの制御を行う制御手段として、CPU (Central Processing Unit) 1を備えている。このCPU 1には、文書データを表示するCRT (Cathode Ray Tube) 等のディスプレイ2と、ユーザーのキー操作により各種データの入力を行うキーボード3と、文書データを印字するプリンタ4と、記録媒体としてのフロッピーディスク (以下、文書ファイルと称する) 単位で文書データの記録/再生を行うFD (Floppy Disk Device) 5と、第1～第3の各メモリ6・7・8と、システム設定記憶手段としてのE² PROM (Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory) 9とがそれぞれ接続されている。

【0015】上記第1メモリ6は、図2に示すように、書式情報、タブ情報、および文章データからなる文書データを格納するための文書データエリアを備えている。第2メモリ7は、固有な名前優先変換 (要/否)、ローマ字入力指定 (ローマ字、かな)、禁則処理関係 (要/否)、印刷時の字形 (78、90年度)、縦書き連数字 (要/否) 等のシステム設定データを格納するためのシステム設定データエリアを備えている。第3メモリ8は、文書データの各データ (書式情報、タブ情報、文章データ) を個別に格納し、また、システム設定データのうち、文章のレイアウトおよび字体に関する文書印刷設定データ (禁則処理関係 (要/否)、印刷時の字形 (78、90年度)、縦書き連数字 (要/否)) を格納するための文書登録/呼出処理データエリアを備えている。

【0016】上記E² PROM 9は、図6に示すように、固有な名前優先変換 (要/否) 等の事前設定されたシステム設定データを格納したシステム設定データエリアと、事前設定された書式情報およびタブ情報を格納した書式・タブ情報データエリアとを備えている。

【0017】上記の構成において、日本語ワードプロセッサにおける文書ファイルへの文書登録プロセス、および文書ファイルからの文書呼出プロセスについて以下に説明する。

【0018】先ず、文書登録プロセスを、図2の説明図、および図3のフローチャートに基づいて説明する。

【0019】ディスプレイ2の入力画面状態にてキーボード3上の登録キーを押し (S1)、次に、登録名等を入力して実行キーを押す (S2)。これに伴い、第2メモリ7上に存在するシステム設定に関するフラグのう

ち、禁則処理関係 (要/否)、印刷時の字形 (78、90年度)、および縦書き連数字 (要/否) の文書印刷設定データのフラグが、第3メモリ8の文書登録/呼出処理データエリアに転送される (S3)。

【0020】そして、上記S2にて、既に第1メモリ6の文書データエリアから第3メモリ8の文書登録/呼出処理データエリアに転送されている書式情報、タブ情報、および文章データの文書データが、文書ファイルに書き込まれ (S4)、これと共に、第3メモリ8の文書登録/呼出処理データエリアに格納された前述の文書印刷設定データが文書ファイルに書き込まれる (S5)。

【0021】その後、上記S4およびS5での文書データおよび文書印刷設定データの文書ファイルへの書き込みが終了すると、ディスプレイ2上に再度入力画面が表示されて (S6)、以上のような文書登録プロセスが終了される。

【0022】次に、上記のようにして文書ファイルに登録された文書データと呼び出す際の文書呼出プロセスに付いて、図4の説明図、および図5のフローチャートに基づいて説明する。

【0023】キーボード3上の呼出キーを押し (S11)、次に、呼び出す文書ファイルを指定して実行キーを押す (S12)。これにより、文書ファイルに格納されている書式情報、タブ情報、および文章データの文書データがそれぞれ第3メモリ8の文書登録/呼出処理データエリアに呼び出される (S13)。

【0024】次に、上記S13での文書データの呼び出しがディスプレイ2の機能選択画面からの呼び出しであるか否かが判別される (S4)。S4にて、文書データの呼び出しが機能選択画面からの呼び出しでない場合、即ち文書作成中に入力画面から文書データを追加して呼び出した場合には、S18に移行して、ディスプレイ2上の入力画面に呼び出した文書データが表示されて、以上のような文書呼出プロセスが終了される。

【0025】一方、上記S4にて、文書データの呼び出しが機能選択画面からの呼び出しである場合は、文書ファイルから文書印刷設定データ (禁則処理関係 (要/否)、印刷時の字形 (78、90年度)、縦書き連数字 (要/否)) の各フラグが第3メモリ8の文書登録/呼出処理データエリアに呼び出され (S15)、次いで、上記の各フラグが第2メモリ7のシステム設定データエリアに転送されてセットされる (S16)。そして、このようなシステム設定データエリアにセットされた禁則処理関係 (要/否) 等のフラグに基づいて、文書データが再編集され (S17)、この再編集した文書データが入力画面に表示されて (S18)、以上のような文書呼出プロセスが終了される。

【0026】次に、日本語ワードプロセッサにおいて、文書データを全部消去して機能選択画面を表示した

5

場合のシステムの設定プロセスに付いて、図6の説明図、および図7のフローチャートに基づいて説明する。

【0027】ディスプレイ2の入力画面にて、消去、実行を行うと(S21)、E² PROM9のシステム設定データエリアから事前に設定されたシステム設定データ(固有な詞優先変換(要/否)、禁則処理関係(要/否)等)の各フラグがリードされ(S22)、これらの各フラグが第2メモリー8のシステム設定データエリアに転送されてセットされる(S23)。尚、上記S22では、システム設定データのリードに伴い、E² PRO

M9の書式・タブ情報データエリアから事前に設定された書式情報、およびタブ情報の各フラグがリードされ、これらの書式およびタブ情報の各フラグは、S23にて、第1メモリー6の文書データエリアに転送されてセットされるものである。

【0028】そして、ディスプレイ2に機能選択画面が表示されると(S24)、上記S23でセットされたシステム設定データおよび書式・タブ情報に基づいたシステム、および書式・タブの設定状態、即ち文書データと呼び出す前のシステムおよび書式・タブの設定状態に自動的に戻されて、以上のようなシステム設定プロセスが終了される。

【0029】以上のように、本実施例の日本語ワードプロセッサは、文書ファイルへの文書データの登録に伴い、この文書データに対応する文書印刷設定データを同時に文書ファイルに登録するようにしており、また、文書ファイルから文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出すことで、文書の印刷設定を上記の文書印刷設定データに基づいて自動的に変更するようになっている。

【0030】このため、文書データ毎に印刷設定を変更するような場合でも、文書データ毎の文書印刷設定データを文書ファイルに登録しておくことで、印刷設定を自動的に変更させることができ、ユーザーは文書を作成した時点と同じ設定で文書を修正することができ、操作性の向上が図られる。

【0031】また、上記のような文書データの呼び出しに際して、この呼び出しがディスプレイ2上の機能選択画面からのものでない場合、即ち文書作成中、入力画面から文書データを追加して呼び出した場合には、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行わず、文書作成中の印刷設定が継続されるようになっている。

【0032】さらに、日本語ワードプロセッサには、所定のシステム設定データを記憶したE² PROM9が設けられている。これにより、文書データを全部消去して機能選択画面を表示する場合には、E² PROM9に事前設定されたシステム設定データを自動的に呼び出して、文書データを読み出す前のシステム設定の状態に自動的に戻すようになっている。

6

【0033】このため、ユーザーは文書データ毎のシステム設定を意識することなく、装置の操作を行うことができる。

【0034】尚、上記実施例は、本発明を限定するものではなく、本発明の範囲内で種々の変改が可能である。例えば、上記実施例では、文書データを記録しておく記録媒体としてフロッピーディスクを用いているが、特にこれに限定する必要はなく、装置内に内蔵されたハードディスク等を記録媒体として用いることも可能である。

【0035】

【発明の効果】以上のように、本発明の請求項1記載の情報処理装置は、制御手段は、システム設定データのうち、文章のレイアウトおよび字体に関する文書印刷設定データを文書データと共に記録媒体に記録し、新規に再度、記録媒体から文書データを読み出す際には、この文書データに伴う文書印刷設定データも同時に呼び出して、文書の印刷設定を自動的に変更する構成である。

【0036】これにより、文書データ毎に印刷設定を変更するような場合でも、文書データ毎の文書印刷設定データを記録媒体に記録しておくことで、印刷設定を自動的に変更させることができ、ユーザーは文書を作成した時点と同じ設定で文書を修正することができ、操作性の向上が図られるという効果を奏する。

【0037】また、請求項2記載の情報処理装置は、請求項1記載の情報処理装置において、制御手段は、文書作成中に別の文書データを読み出す場合、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行わず、文書の印刷設定の自動変更は行わない構成である。

【0038】これにより、文書データの呼び出しに際して、この呼び出しが、文書作成中に文書データを追加して呼び出した場合、即ち機能選択画面からの呼び出しでない場合には、この文書データに伴う文書印刷設定データの呼び出しは行われないため、文書作成中の印刷設定が継続され、結果として、文書データを追加呼び出すような場合にも、十分に印刷設定が対応し得る便利な情報処理装置を提供することができるという効果を奏する。

【0039】また、請求項3記載の情報処理装置は、請求項1記載の情報処理装置において、所定のシステム設定データを記憶したシステム設定記憶手段を備え、制御手段は、文書データを全部消去して機能選択画面を表示する場合、システム設定記憶手段に記憶されたシステム設定データを自動的に呼び出し、文書データを読み出す前のシステム設定の状態に戻す構成である。

【0040】これにより、ユーザーは文書データ毎のシステム設定を意識することなく、装置の操作を行うことができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例における日本語ワードプロセッサの各種構成部材を示すブロック図である。

7

8

【図2】第1メモリの文書データおよび第2メモリの文書印刷設定データが第3メモリーを介して文書ファイルに登録される状態を示す説明図である。

【図3】上記文書ファイルへの文書登録プロセスを示すフローチャートである。

【図4】文書ファイルの文書データおよび文書印刷設定データが第3メモリーを介して第1・第2の各メモリーに転送される状態を示す説明図である。

【図5】上記文書ファイルからの文書呼出プロセスを示すフローチャートである。

【図6】E² PROMの文書データおよびシステム設定データが第1・第2の各メモリーに転送される状態を示す

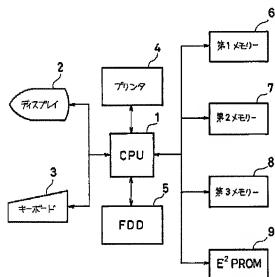
説明図である。

【図7】上記E² PROMのシステム設定データによるシステム設定プロセスを示すフローチャートである。

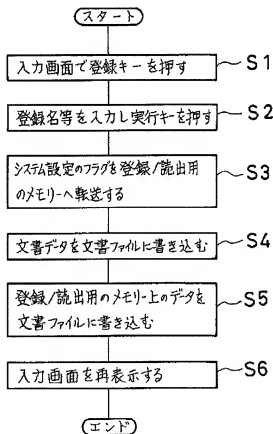
【符号の説明】

- | | |
|----|----------------------------------|
| 1 | CPU (制御手段) |
| 2 | ディスプレイ |
| 3 | キーボード |
| 4 | プリンタ |
| 5 | FDD |
| 10 | 6・7・8 メモリー |
| 9 | E ² PROM (システム設定記憶手段) |

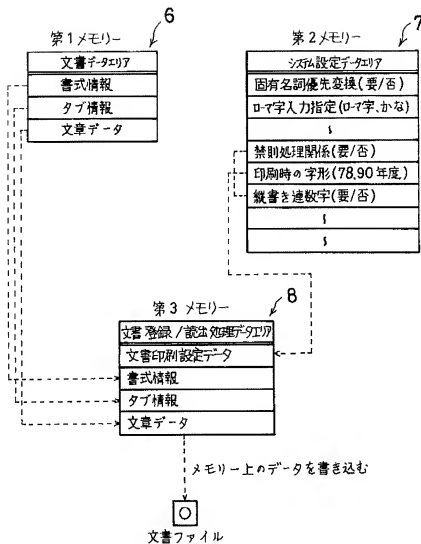
【図1】



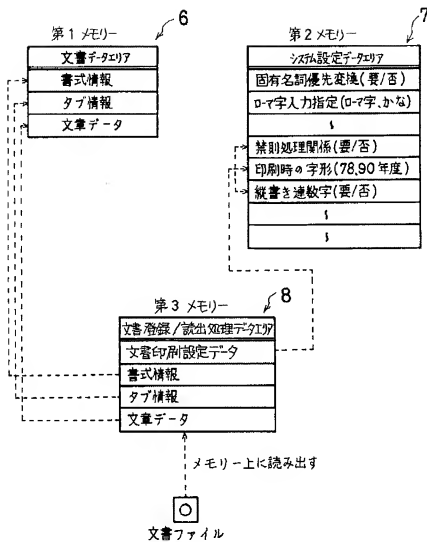
【図3】



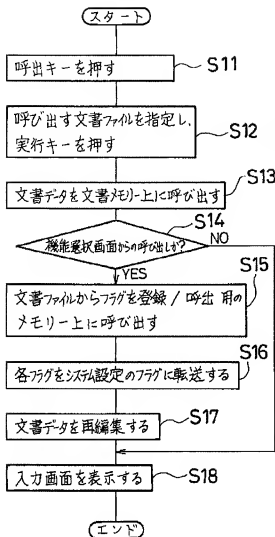
【図2】



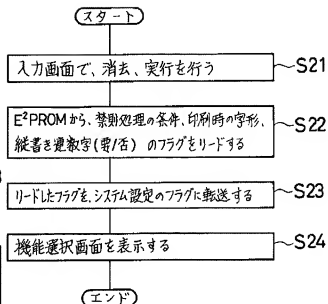
【図4】



【図5】



【図7】



【図6】

